

1988.11

愛鳥教育

No. 28号

全国愛鳥教育研究会

愛鳥教育 No.28

1988. 11

目 次

巻頭言.....	江袋島吉	3
愛鳥教育日中交流派遣団に参加して.....	岡本治子	4
〃	児童感想文.....	5
昭和63年度全国愛鳥教育研究会総会報告.....		6
むらの理科ことはじめ(2)		
「もずのはやにえみつけよう」.....	金井郁夫	8
高尾だより.....	金井郁夫	10
R S P Bプロジェクトガイド		
「学校でできる野鳥の研究」		
杉田優児・杉田真紀子・杉浦嘉雄訳.....		11

巻頭言 会長就任にあたって

全国愛鳥研究会会長 江袋 島吉

〈下田先生のこと〉

下田先生の赴報を耳にして、まず胸中をよぎったものは「まさかあの若さで」という驚きと「これから先、愛鳥研はどうなるのだろうか?」という不安の二つであった。

思い起こすと、私が二子玉川小学校に在職中の昭和52年3月、東京都から愛鳥モデル校の指定を受けて戸惑っていたおりに、先輩校として紹介されさのが下田先生の戸倉小学校だった。

早速関係職員と共に学校を訪問し、親しくご指導をいただいたのがそもそもの出会いで、その後も折りに触れてご助言を賜ったものである。

研究歴の浅い本校が、昭和53年度の実績発表大会で最優秀賞に輝いたのも、先生のお力添えがあったからこそと恩義に感じているところである。

昭和55年の初頭に「愛鳥教育の全国組織を作りたいから、ぜひ発起人代表になって欲しい」との依頼があり、その末席に加えていただいたが、3月24日には、規約(案)と発会式の日取りを知らせる案内状が首都圏を中心に発送された。かくして、昭和55年5月17日渋谷の山階鳥類研究所において記念すべき設立総会が開催されここに本会の誕生をみるに至ったのである。

初代会長は田村活三氏、下田先生は常務理事として実際活動の先頭に立たれることとなった。

昭和61年に、田村会長が健康を害して退任されると、第2代会長となって名実共にトップに立たれて、優れた人柄と卓越した識見、さらに巾広い人脈とをもって会の発展につくされたが、本会の恒常的な問題でもある会員の増加、財政の確立については常に悩んでおられたようである。

会長就任後2年を経ずしての突然のご逝去であるだけに、心残りも多かったものと拝察する。

思えば下田先生あつての本会であり、愛鳥研は下田先生そのものであったと言えることができる。それなのに、なぜ鬼籍に入ることを急がれたのであろうか、返す返すも残念でならない。心からご冥福をお祈りするのみである。

合掌

下田先生亡き後の本会の行末に思いをはせていたおりに、突然会長就任の要請があり、固辞を重ねたが、ついにお引き受けをすることとなった。

大黒柱を失った直後だけに、不肖の身にとっては重荷と言わざるを得ないが、ただ副会長並びに常務理事各位のご支援と、会員諸氏のご協力とによって、円滑な会務の運営を望むのみである。

ところで、就任早々に各方面から本会の活性化についてのご意見やご要望を承わったが、いずれも多年の課題である会員数の増加と財政の確立に関するものであり、特に注目を要するのは法人化構想が浮上してきたことである。

本会では現時点では約200校の愛鳥モデル校と約500名の個人会員を擁しているが、遊休会員もあることを考えると、絶対数を増やさない限り今後の活性化は望むべくもない。

財政面からしても、昨年度の値上げによって一時的に愁眉を開いたものの、予断を許さないのが現状である。

また、事務局の常務理事のほとんどが東京の教育現場の方々であつて、無償のご奉仕をお願いしているだけに、多くを望むことはお気の毒といったことも、多分に配慮を要する点である。

会誌の充実についても、内容が硬すぎるとか、より巾広く、より具体的に、子供の作品も等々数々のご意見を頂だいでいるが、この点についても上記のような事情をご理解の上、全国各地からより多くの投稿をお願いする次第である。

確かに法人化することによって、関係省庁や各団体からの援助があればその基盤も確立、会の発展にもつながるとは思うが、道は遠く険しいものがあり、その当否の検討と併せてしばらくは静観当面内なる努力を続けたいと考えるものである。

以上、課題山積の現状からして、多事多難の道程ではあるが、下田先生のご遺志に報いるべく懸命の努力を傾ける所存なので、会員各位の旧に倍するご支援ご協力を切望してやまない。

愛鳥教育日中交流派遣団に参加して

東京都世田谷区立二子玉川小学校教諭 岡本治子

はじめに

世田谷区の愛鳥モデル校と、中華人民共和国南京市南京師範大学付属学校との親睦と、国際的視野をもった児童の育成を目的として、5月23日から27日までの5日間、南京市を中心に関係機関を訪問して参りました。

派遣先

- (1) 蘇州市滄浪区実験小学校
- (2) 南京市江蘇省テレビ局
- (3) 南京市農林庁野生動物保護協会
- (4) 南京人民政府
- (5) 南京師範大学付属学校

派遣団

団長	世田谷区立船橋小学校	校長	柳瀬	修
団員	同	船橋小学校	6年	叶野 武男
	同	同		宮崎 由佳
	同	二子玉川小学校	6年	川上 亮
	同	同		伊藤 知代
	同	二子玉川小学校	教諭	岡本 治子
	世田谷区教育委員会指導主事			海老澤孝夫

熱烈歓迎

蘇州市の実験小学校では、「熱烈歓迎！蘇州滄浪区実験小学校」と書かれた大きな文字が目につきました。校長先生をはじめ多くの先生方の出迎えを受け、すぐ4年生の「自然科」の愛鳥の授業を見せてもらいました。VTRで鳥の生活について視聴し、そのあと5、6人のグループで剝製の標本を見て、その鳥の生態や特徴を調べる学習をしていました。どの子供の顔も明るく、目が輝き真剣に取り組む姿に感動しました。

やがて昼食時になりました。昼食は全員家に帰って食べるのです。その時の行動には無駄話が全く無く、先生の指示どおり行動し、どの子も姿勢がよく、歩く姿は実にさっそうとして、表情が生き生きしているのが印象的でした。

テレビ局訪問

昨年、船橋小学校と二子玉川小学校を訪問された江蘇省テレビ局の、王順南さんの出迎えを受け

ました。両校を中心に取材した愛鳥活動の様子を中国で放送したところ、大変好評で、4回も再放送したことを聞いて、私達も嬉しくなりました。そのあとテレビ局内を案内され、各所を見せてもらいました。

南京人民政府訪問

代表児童の挨拶に感動され「これからは子供の世界です。中国と日本の交流がますます深まることを期待したい」というメッセージをいただきました。またこの建物は林に囲まれて、多くの鳥が生息し、木々の間を飛びかっていた。子供達は大喜びでカメラにとったりしていました。

農林庁野生動物保護協会訪問

日本の小学校の愛鳥活動のようすを詳しく聞かれました。特に魚釣り用のテグス等の回収については、よく状況がつかめない様子でした。野生動物の保護地区へ子供達をぜひ連れていき、その実態を見せたいが、2～3日間必要なので、再度ゆっくり来て欲しいと、ここでも熱烈歓迎を受けました。愛鳥、自然保護のためにも、ぜひ実現させてあげたいと思いました。

おわりに

飛行機でわずか2時間という距離の隣国、気候もよく似ていて生活しやすく、なぜか異民族とは思えないほど親近感のある中国でした。

一直線にどこまでも続く広い道路の両側には、ポプラと柳の街路樹が植えられ、真青な空に並木の緑が映えて、大変美しい町並でした。その中を自転車で行き交う人の群は、若い力があふれている感じでした。美しい自然をいつまでも守りとおして欲しいと願っています。

4人の子供達は、いつの日か再び中国を訪れ、今回お目にかかった方々と会い、更に小学校も訪問してお礼を言いたい。そして、日本と中国がいつまでも仲良しの国であることを誓いたいと、うれしい感想をもらしてくれました。

このたびの訪問で温かく迎えていただき、お世話下さった方々に心からお礼を申し上げます。

児童感想文

東京都世田谷区立二子玉川小学校 6年 川上 亮

ぼくは、5月23日から5日間学校の代表で中国に行くことになりました。蘇州市、南京市、上海市の三つの市を訪問するためです。

蘇州市の実験小学校では、自然科と言う授業を見せてもらいました。自然科という勉強は、自然の事の勉強です。ぼくたちはこの自然科の勉強を見てびっくりした事があります、それは生徒達がおしゃべりしないで、きちんと先生の話聞いていたことです。この自然科の勉強をやっていたのは、3年生と4年生でした。ぼくたちが4年の時はしゃべっていたりしていたので、この中国の人に比べると、とってもはずかしく思いました。

南京では、去年二子玉川小と船橋小でさつえいした物を放送したら大人気で、4回も再放送したそうです。南京人民政府は、ぼくたちが入ったらもったいない位ごうかでした。南京人民政府から次の所へ行く時に、珍しい鳥を見つけました。木の上には、鳥の巣もありました。人民政府のあの広い庭の中に、いったい何羽位の鳥がいるのだ

ろうと思いました。

農林庁野生動物保護協会では、ぼくがあいさつをしました。ここでは、おもに傷ついた動物のけがをなおしてあげたり、動物を安全に守ったりする所と聞きました。帰る時に、貯金箱をもらいました。

上海市では、豫園に行き太湖石や巨大な龍を見ました。ぼくは太湖石に登りたかったけど、登れなかったのでざんねんでした。巨大な龍は、名のとおりすごく大きくて、迫力がありません。

蘇州市や南京市や上海市の三つの市を歩く時に中国人の人達が、ぼくたちの方をじろじろ見たり、首から下げているカメラを見るので、なんだろう思いました。

学校の代表で中国に訪問に来たのに、観光もできてよかったと思いました。

こんど、また外国に行けるとしたら、ぜひ中国に行って、こんど訪問した学校や役所や保護協会の豫園の人々や生き物たちに会いたいと思います。

東京都世田谷区立二子玉川小学校 6年 伊藤 知代

中国に来て、今日は3日目です。朝早くからバスに乗って、テレビ局に行きました。私はそこであいさつをしました。まちがえないで言えたので一安心です。次の訪問先は、南京人民政府です。そこであいさつをする宮崎さんは、こちこちにきんちょうしていましたが、私は大丈夫でした。

道路のわきに自動車で行くと、いままでとちがって、町の中から森の中に入ったみたいで私達はとてもびっくりしました。

「わー………」

と、小さな声が出るほどきれいな所でした。中は高い木がいっぱい植えてあって、まるで、木に囲まれた家みたいに、南京人民政府の建物が見えました。ちらっと少しはなれた木を見ると、鳥が見えました。思わず声を上げそうでした。ほんのいっしゅんでしたが、カラスぐらいの大きさの白い鳥を見つけたからです。でも、その話は後にすることにして、部屋の中に入りました。

部屋はとても広くて、声がよく通ります。それ

に鳥の声がとてもよく聞こえるのです。鳴き声だけでは、どんな鳥かわからないけど、とても気分がすっとする気持ちのよい鳴き声です。

市長さんは、私達が来たことをとてもかんげいして「これからもがんばって下さい」と言ってくれました。

外に出ると、車の中から見たあの白い鳥が見えました。羽の所に少し茶色っぽい色が入っているけど、大きくて、とてもすてきな鳥でした。

みんなで、指さしたり、写真を写しましたが、鳥の写真は、1枚も写すことが出来なくて、鳥を指さしているみんなの写真があっただけで、とてもざんねんです。

「あれは、中国語で、路鳥と言う鳥です。」と、通訳の人が教えてくれました。

みんなで、もっとよく見ようと、中に入りましたが、広いので鳥に追いつくことができませんでした。バスが門から出る時に、もう一度路鳥を見るチャンスがあるといいなあと思いました。

昭和63年度 全国愛鳥教

今年度の総会は、昭和63年8月10日12:30～16:30(財)山階鳥類研究所(千葉県我孫子市)にて開催されました。

今年2月に下田会長の急逝という、当会にとっての一大事がありましたが、会長の遺志を重んじ金井副会長をはじめ、理事、常務理事の連携プレー、そして連盟の多大な援助をいただいで、新会長の選出はじめ、総会を無事行うことができました。

新会長選出される

理事、常務理事会の全会一致で江袋島吉氏が推選され、総会で承認されました。

江袋新会長は、その挨拶の中で、「突然の事で、とまどっているが、下田会長の業績をひきつぎ、活動に創意工夫を生かしより活性化をさせたい。また、そのような活動の中で組織の拡大もできるのでは…と考えている」と、抱負をのべられました。

江袋 島吉氏(新会長) 略歴
前世田谷区立二子玉川小学校校長
全国愛鳥教育研究会監事

総会のプログラム

- (1) 会長代行(副会長)挨拶
- (2) 昭和62年度事業報告
- (3) 昭和62年度決算報告及び監査報告
- (4) 新役員選出及び新会長挨拶
- (5) 昭和63年度事業計画案
- (6) 講演「中型獣(タヌキ等)の人接近！」
金井郁夫副会長
- (7) (財)山階鳥類研究所施設見学
(研究所 百瀬氏指導)
プログラム(2)～(5)について、杉浦・栗原常務理事より報告・提案があり、了承された。
(内容・資料1. 2. 3. 4)
新常務理事——岡本嶺子
〒114 東京都北区王子5-2-2-827
☎03-927-0927

〔資料1〕

昭和62年度全国愛鳥教育研究会事業報告

①「愛鳥教育の発行について

- (1) 23号(8月)、24号(1月)、25・26号(3月)
- (2) 付録として、訳文「鳥の飛翔」(23号)
実績報告書(25・26号)

②総会について

- 期日：昭和62年8月10日
場所：東京都立高尾自然博物館会議室
内容：(1)昭和61年度事業報告(2)昭和61年度決算報告(3)昭和62年度事業計画
その他(4)講演「高尾山の自然」金井郁夫副会長(5)高尾山の自然観察…参加者22名

③研修会について

- (1) 夏期研修会—昭和62年6月13～14日
三宅島、20名参加。三宅島の野鳥、火山、植生、磯の生物
- (2) 冬期研修会—昭和63年3月27日多摩川(大栗川合流地点)50名参加。多摩川の野鳥、テグスひろい、調査

④愛鳥教育の国際交流

- (1) 日中交流——訪日視察団(5名、江蘇省)
5/6～5/14
訪中視察団(5名、うち会長、副会長)11/30～12/6
- (2) 日仏交流——訪仏視察団(5名、うち常務理事2名)9/3～9/15
(訪日は昭和63年5月)

⑤その他の行事審査への参加

- (1) 連盟主催夏休み子ども鳥博士研修会指導
(8/27～30、三宅島)常務理事三名(長屋、杉田、杉浦)
- (2) 愛鳥週間ポスター・コンクール審査会
(10/22、東京、NHK青山荘)下田会長
- (3) 鳥獣保護実績発表大会、江袋会長代理
(10/8、12/3 環境庁)
- (4) 愛鳥週間功労者選考会 江袋会長代理
(3/23、東京NHK青山荘)

育研究会総会報告

(財)山階鳥類研究所にて開催

〔資料2〕

昭和62年度全国愛鳥教育研究会決算報告

昭和62.4.1～63.3.31

収入	1.会費	936,000円
	(連盟に入金分23,000円)	
	2.寄付金	8,000円
	3.仮受金	1,000円
	4.研修会費	400,000円
	(@2,000×20名)	
	5.受取利息	2,142円
	計	1,347,142円

支出

1.会誌発行費	1,023,000円
2.通信運搬費	210,500円
3.研修会支出	375,000円
4.交際費	25,000円
5.事務費	1,030円
6.会議費	1,750円
7.当期欠損金	△ 289,138円
計	1,347,142円

現金9,220円、普通預金2,278円
振替貯金9,600円、郵便貯金796円

〔資料3〕

監査報告

前期繰越金	538円
当期欠損金	△ 289,138円
次期繰越金	△ 288,600円

上記の通り報告します。

昭和63年3月31日 会長代行 金井郁夫

会計 杉浦嘉雄、岡本嶺子

監査の結果上記の通り相違ないことを認めます。

昭和63年4月20日

監事 江袋島吉、渡辺研造

〔資料4〕

昭和63年度全国愛鳥教育研究会事業計画

①「愛鳥教育」の発行について

- (1)27号(8月)、28号(10月)、29号(1月)、
30号(3月)

(2)内容①RSPB「リーダー用ガイド」訳はじめ、国際交流に重点をおく。②「愛鳥教育」の実践、理論に役立つ資料的な価値のあるものを掲載する。

②総会について

今年度も夏季研修会を自然観察のしやすい6月に、総会を8月に入れかえて研修会、見学会等の充実をはかる。

期日：昭和63年8月10日

場所：(財)山階鳥類研究所(千葉県我孫子市)

内容：前記プログラム

③研修会について

(1)夏期研修会…昭和3年6月18、19日 長野県富士見高原、参加者20名

内容I野鳥観察、II星座観察、III日中・日仏愛鳥交流報告(細谷副会長、杉田常務理事)

(2)冬期研修会…昭和64年2月予定

多摩川中流(東京都福生付近)

④愛鳥教育の国際交流

(1)日仏交流…昭和63年5月13日～22日

訪日団5名、東京、埼玉の愛鳥モデル校訪問

(2)日豪交流…昭和63年5月24日～1日

訪日団4名、東京、神奈川の愛鳥モデル校訪問

⑤その他の行事、審査会への参加

昭和62年の(1)～(4)の参加、他の研究会への参加交流もする。

モズのはやにえみつけよう

当研究会副会長 金井郁夫

5時間めの始まりは昼休みの興奮さめやらず、といった感じで生徒はなかなか落ち着かない。彼等の静まりを待つ間窓わくに寄りかかってポケットと外を見ていると、前の雑木林でひときわめだつヒノキのてつぺんに一羽の鳥、やおら、キーツキキキと叫び始めた。

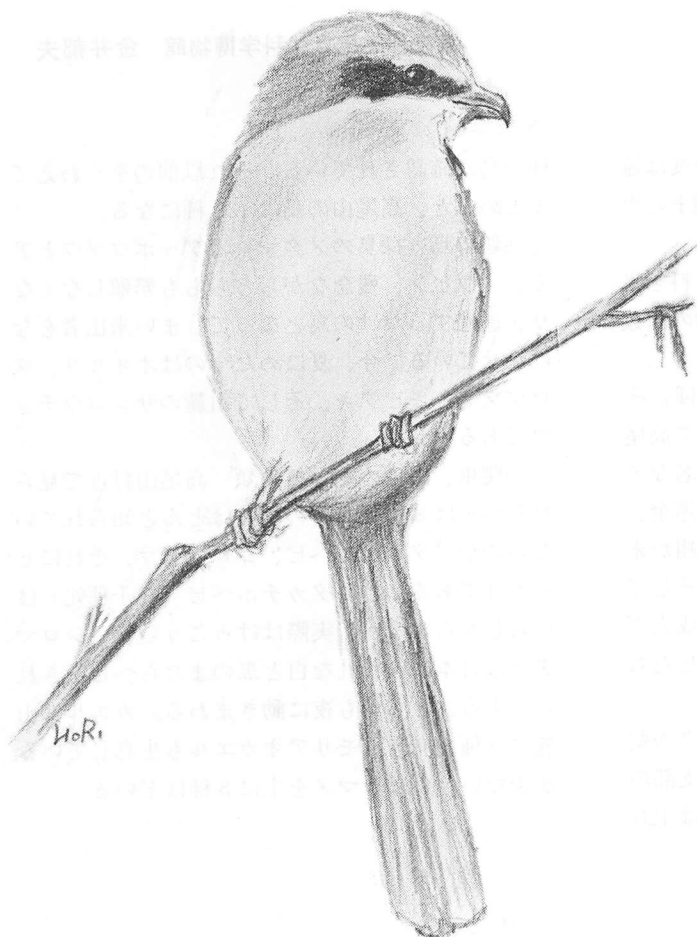
「おいっ網野、あの鳥何だか知ってるか」と話しかける「どれよおっ」と言いながら窓ぎわまでやって来て外を見る。「あの高いヒノキの一番上にとまってるやつだ」と指さす。「ああ、あのうるせえやつか、モズじゃあねえの」、「あたり、さすが動物博士だな」にはニヤリ、そして「あいつはめだちたがりやでよお、テレビのアンテナやポプラの木でよくキイキイやってんもんなあ」、「そうだよなあ、あいつはなんてったって変りもんだよな、自分の子育ては2月頃早ばやと終らせちゃって、後はずっとダンマリを続け、秋になると急に叫びだすんだからなあ」と2人だけの会話を続けていると、いつの間にか皆静かになってモズ談議を聞いているのではない。

そこで改めて教卓の所へもどり、全員に話しかける「今、網野と話していたあのモズだけどみんな知ってるかな」には「見たことはあるけど名は知らなかった」が大部分、そこで「知らねえとあらば絵を見せてやっかあ、おい網野準備室へ行って福音館の鳥図鑑持ってこいや」と頼む。子ども向けだが絵が大きくていねいに書いてあるから説明にはもってこいだ。さっそくモズの絵を見せてまわる。「目つきわるいなあ」、「ワシみてえにおっかねえくちばしだ」、「雄の方がめだちたがりやだなあ」等言いながら見ている。

「せっかくモズの絵を見たんだから、モズっぱなし(話)を続けるか」には「そうしましょう」の唱和である。納まったところで「皆の中で今ごろから冬にかけてバラ線のとげや木の枝、草の間などにカエルやミミズ、フナやドジョウの小さいのが刺してあったり、はさんであるのを見た者いねえか」と見まわす。

沢井と西本の二人が「おらあ見たぞ」、「おれだつて」と手をあげる、「ほう見たか、沢井はどこで何を見た」、「おれんちの庭でカラタチのとげにカエルが刺してあったんだ」と得意そうに答える。「俺はなあおめえんち知らねえだ、何町よ」と追求する。「あっそうだな高月なあんだ」「そうか、高月は加住でも有数の米どころで田んぼが多いからカエルもいる、モズも仕事がいやすいんだなあ」でひと休み、そして、「次は細野だなあ、どこで何を見た」、「丹木一丁目の山でなやっぱしカエルだわ、こいつは2本の枝にはさまれてたわ」、「これで終りか、加住のモズはあまりはやにえづくりをやらねえのかなあ」とつぶやく。

最前列にいた坂本がおやっ、といった顔で「先生っ、そのはやにえっというのは何だ」の質問、「それはなあ、さっきいったようにモズがトカゲやバッタ、ときにはネズミといったような小動物をつかまえて木の枝や草の間にはさんでおく物のことなんで、昔からあるらしく、モズの草くき、とも呼ばれて俳句にもよまれてるんだな」、「それはそうとしてモズはなんではやにえなんか作るんだ」と春日が尋ねる。「いいところへ気が付いたな、ほんとうのわけはモズにきかなきゃあ判らねえんだが、みんなで考えるとするか、まず、てはじめに春日、おめえさんはどう思う」、「冬に食うためじゃあねえの」、「そう考えるのが一番自然だな、それにしっちゃあ春まで残っている物もあり、そう簡単にいかねえんだが、縄張りをあらわすとか、モズの遊びだとか、いろいろな説があるんだな、みんなもこれから田んぼ道や草っ原、畠のそばを歩く時は、はやにえさがしをしながら歩いて点数かせぎをやるんだな」と言ってモズ談話会は終りとする。



図は会員の堀ノ内氏(神奈川県)

モズのはやにえ

- ①餌不足の冬に備えての貯蔵説。
- ②なわばりの境界を示すという説。
- ③満腹時に余分に捕えた餌を刺すという説。
- ④タカのような鋭い脚をもたないため、とがった所を脚の代りや補助に使うという説。

その他にもさまざまな説がありますが、どれも定説には至っていません。しかしながら、冬に渡ってしまう一部のモズもはやにえをすること、なわばりの境界線だけにはやにえをするのではないことなどから、③④の方が、説としては有力なようです。

野外での識別

雄は背中が青みがかったグレー、頭は赤茶色、お腹は淡い茶色、黒くて太い過眼線、翼に白斑がある。雌は全体に茶色っぽく、過眼線と白斑はほとんど目立たない。

高尾だより

東京都高尾自然科学博物館 金井郁夫

東京あたりに住む子ども達にとっては一度は遠足で行く所として知られる高尾山は生物相手の専門家にとっても価値ある山でもある。

私がこの25年間にわたって調べたり、資料を集めたりした結果によって高尾山に住む動物の種数と話題の動物を紹介しよう。

(1) 獣(哺乳)類 日本の獣はざっと100種、そのうち東京都で確認されたのは41種、そして高尾山に居るのは31種である。その中で一番有名なのは、ムササビ、である。この10年ほどは毎週金、土の夜はムササビを観察するグループが何組か来山している。初めは大学のクラブあたり、そして高校、中学生となり、最近では子ども会や成人グループも訪れるようになっており、ムササビたちもさぞ驚いていることであろう。

(2) 鳥類 戦後始まったバードウォッチングの聖域として有名な高尾山は日本野鳥の会東京支部の探鳥地となっており、20年におよぶ結果では120

種の鳥が確認されている。それ以前のをくわえてまとめると、高尾山の鳥は138種になる。

話題の鳥(探鳥のメダマ)はブッポウソウとアカショウビン、残念ながらどちらも繁殖しなくなり、通過するだけの鳥となっしまい来山者をなげかせている。今、夏にめだつのはオオルリ、クログミ、キビタキ、そして山麓のサンコウチョウである。

(3) 爬虫、両生、そして魚類 高尾山付近で見られるへびは8種類、そのうちほとんど知られていないのが、タカチホへび、シロマダラ、それにヒバカリである。特にタカチホへび(高千穂蛇)は珍らしがられるが、実際はけっこういる。シロマダラは日本にはまれな白と黒のまだらへびできれいである、どちらも夜に動きまわる。カエルは山麓に9種、有名なモリアオガエルも生息しているが少ない。魚はヤマメを主に5種ほどいる。



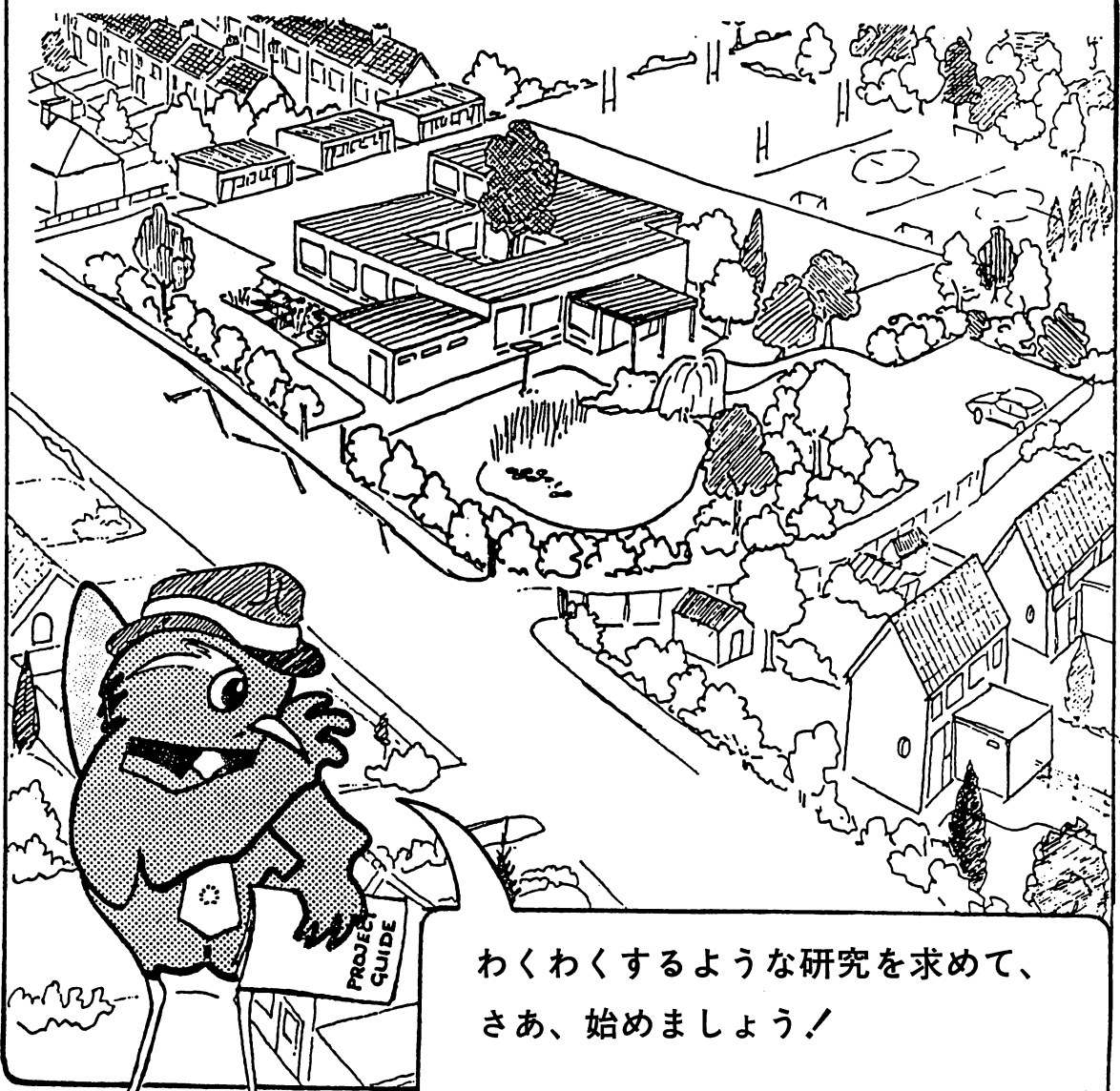
BIRD STUDIES USING SCHOOL GROUNDS

『学校でできる野鳥の研究』



PROJECT GUIDE

杉田優児・杉田真紀子・杉浦嘉雄 訳



わくわくするような研究を求めて、
さあ、始めましょう！

イギリス鳥類保護協会 (RSPB)
リーダー用パンフレット

目次

はじめに

- なぜ、鳥について勉強するのでしょうか。 1
どこから勉強したらよいのでしょうか。 3

教室でできる観察 6

鳥を寄り寄せるには 7

餌台 8

餌 10

給餌器 11

巣箱 12

水 15

池 16

観察場所 17

研究を進めるための視点 21

ここでは、それがどんな活動であるのか
一目で分かるように次のマークを使います。



観察



観察と記録



工作

コンピューター 27

Y.O.C. ※ 30

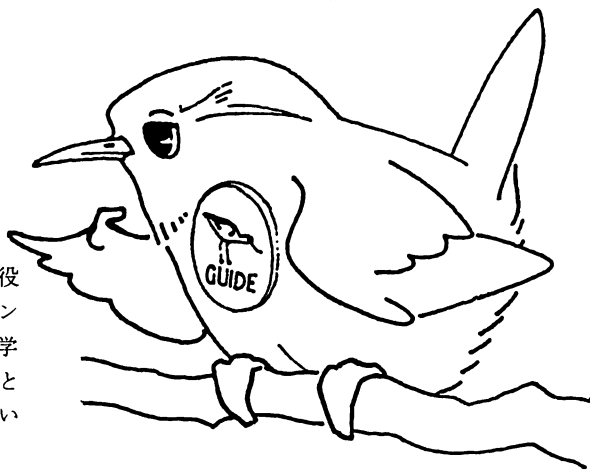
参考文献 31

※THE YOUNG ORNITHOLOGISTS' CLUBのこと。

RSPB関連の青少年組織。

こんにちは！

私は、ミソサザイです。私は、皆さんのガイド役を務めますが、これから皆さんをバードウォッチングの鳥の世界にご案内します。そして、皆さんが学校で私たち鳥を刺激的でわくわくするような教材として自信を持って使っていただけるようお手伝いしようと思います。

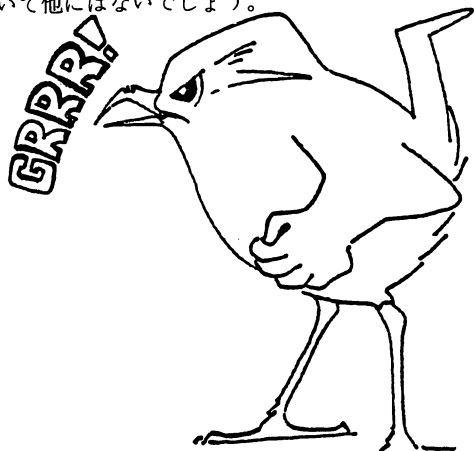


なぜ鳥を選ぶのでしょうか？

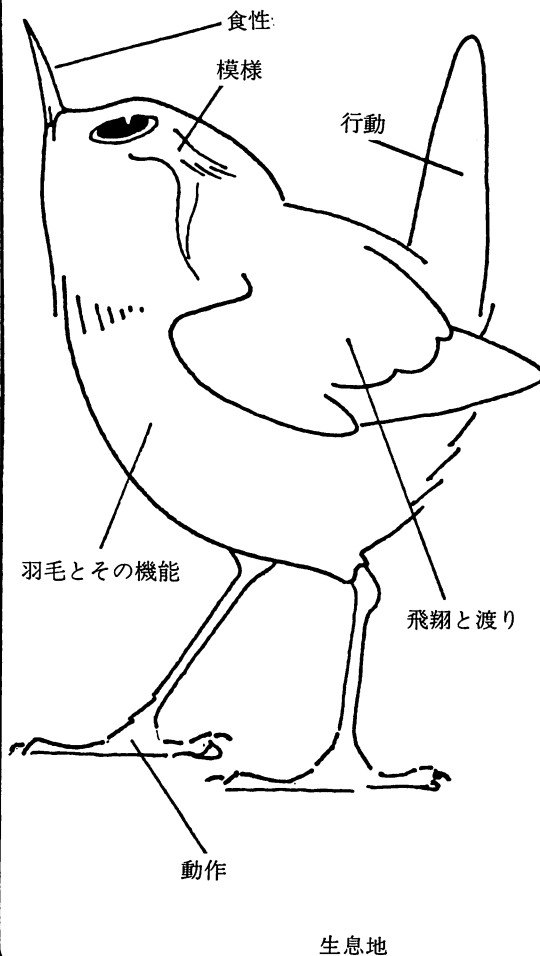
今日、それこそたくさん本やラジオ・テレビの番組があり、野生動物のいろいろな様子が紹介されています。確かにそれらは美しく制作されており、野外での彼等の生活を本当によく私たちに見せてくれます。しかし、私たちがそれを観察しようと思っても、実際にはそれほど簡単なことではありません。その点、鳥は、学校でも研究できるという点で、他の野生動物よりも教材として優れていると言えます。

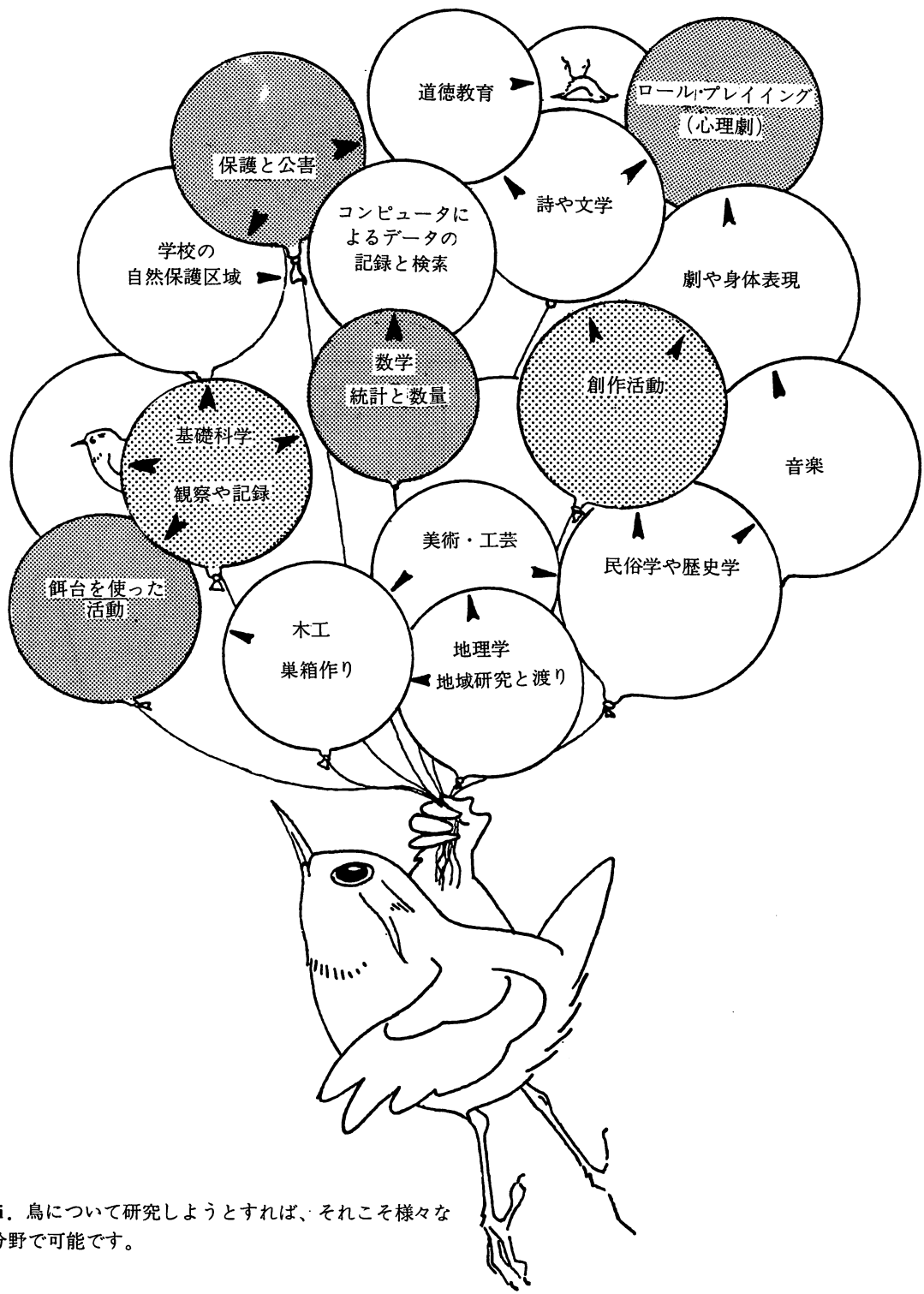
i. 鳥の間には、本当にいろいろな色をしたものがあります。そして、鳥は活動的です。夏でも冬でも、また昼夜を問わずいつでも観察でき、研究にはとても役に立ちます。それ以上に魅力的なのは、鳥はどこにでも住んでいて、あなたの学校がどこにあったとしても必ず観察することができるということです。

ii. 日常、普通に見ることができる野生動物は、鳥をおいて他にはないでしょう。



iii. 鳥に関する研究テーマは、それこそ豊富にあります。





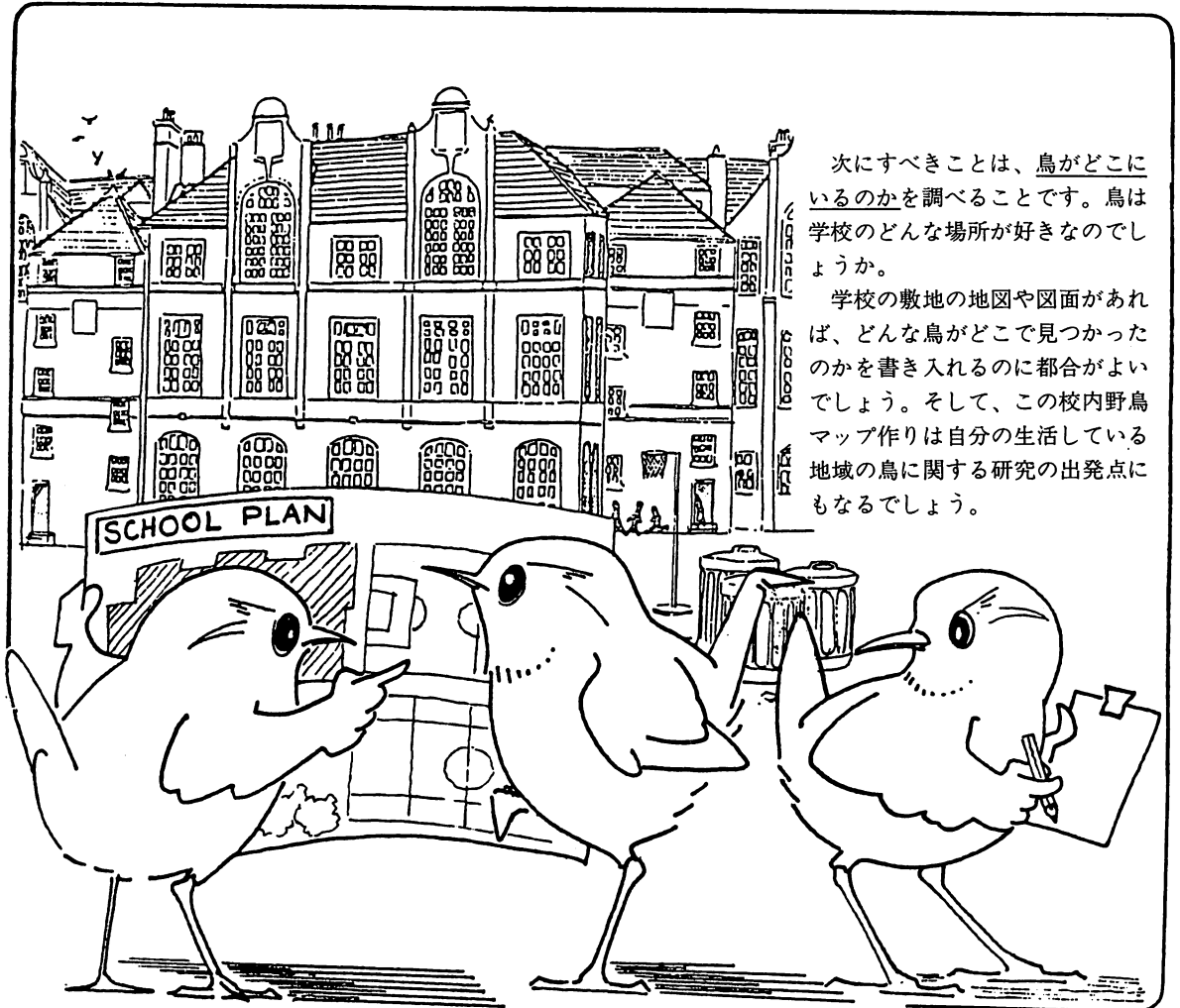
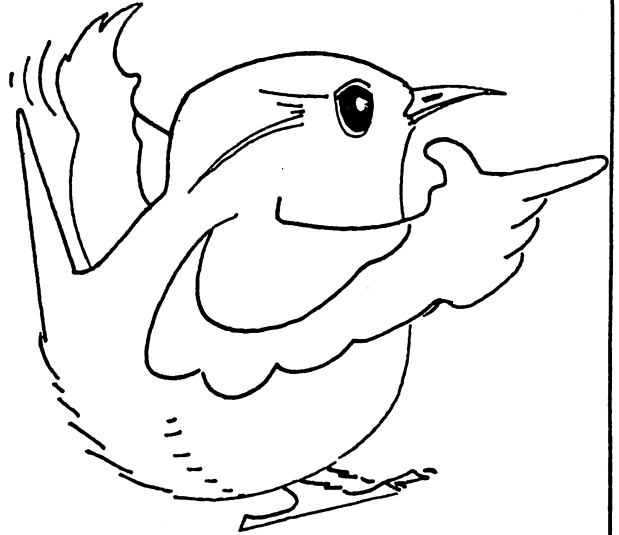
vi. 鳥について研究しようとするれば、それこそ様々な分野で可能です。

どこから始めたらよいでしょうか。

学校から始めましょう。学校の敷地には、たくさんの鳥がやってくることは望めませんが、それでもいつも何羽かは来るものだからです。皆さんが鳥についてもっと知り、子供たちのバードウォッチングの技術も向上すれば、学校の外に出ることもできるようになります。

最初にすべきことは、学校にはどんな種類の鳥がやって来ているのかを調べることです。

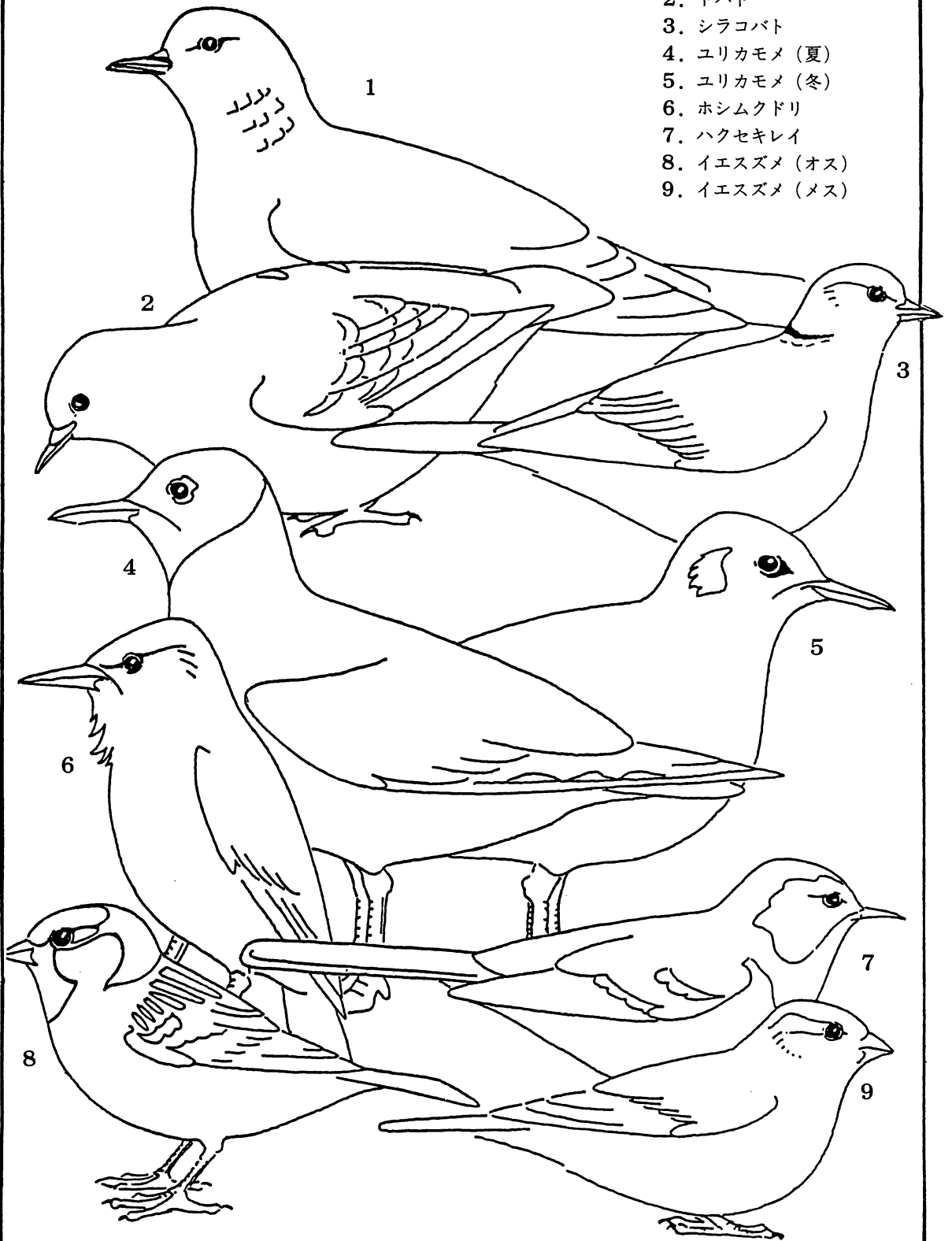
4ページに学校で見ることのできるごく一般的な鳥を載せておきました。それを複写し、鳥の本をお手本にさせながら子供たちに塗り絵をさせるとよいでしょう。そうすることで、子供たちは鳥を識別できるようになり、後で新しい鳥に出会った時も、すでに知っている鳥との比較で分かるようになります。

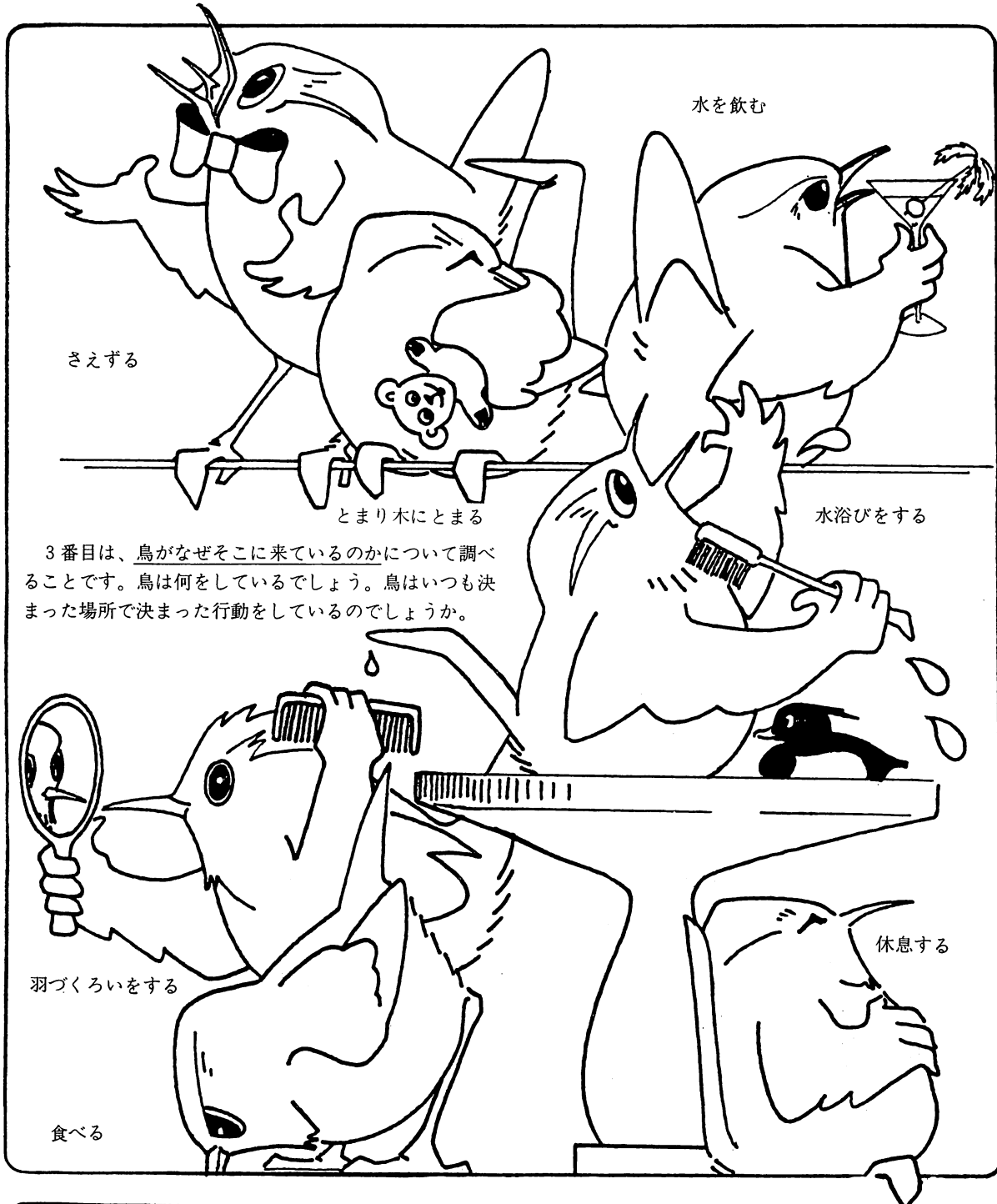


次にすべきことは、鳥がどこにいるのかを調べることです。鳥は学校のどんな場所が好きなのでしょうか。

学校の敷地の地図や図面があれば、どんな鳥がどこで見つかったのかを書き入れるのに都合がよいでしょう。そして、この校内野鳥マップ作りは自分の生活している地域の鳥に関する研究の出発点にもなるでしょう。

1. モリバト
2. ドバト
3. シラコバト
4. ユリカモメ (夏)
5. ユリカモメ (冬)
6. ホシムクドリ
7. ハクセキレイ
8. イエズメ (オス)
9. イエズメ (メス)





3番目は、鳥がなぜそこに来ているのかについて調べることです。鳥は何をしているでしょう。鳥はいつも決まった場所で決まった行動をしているのでしょうか。

問題点

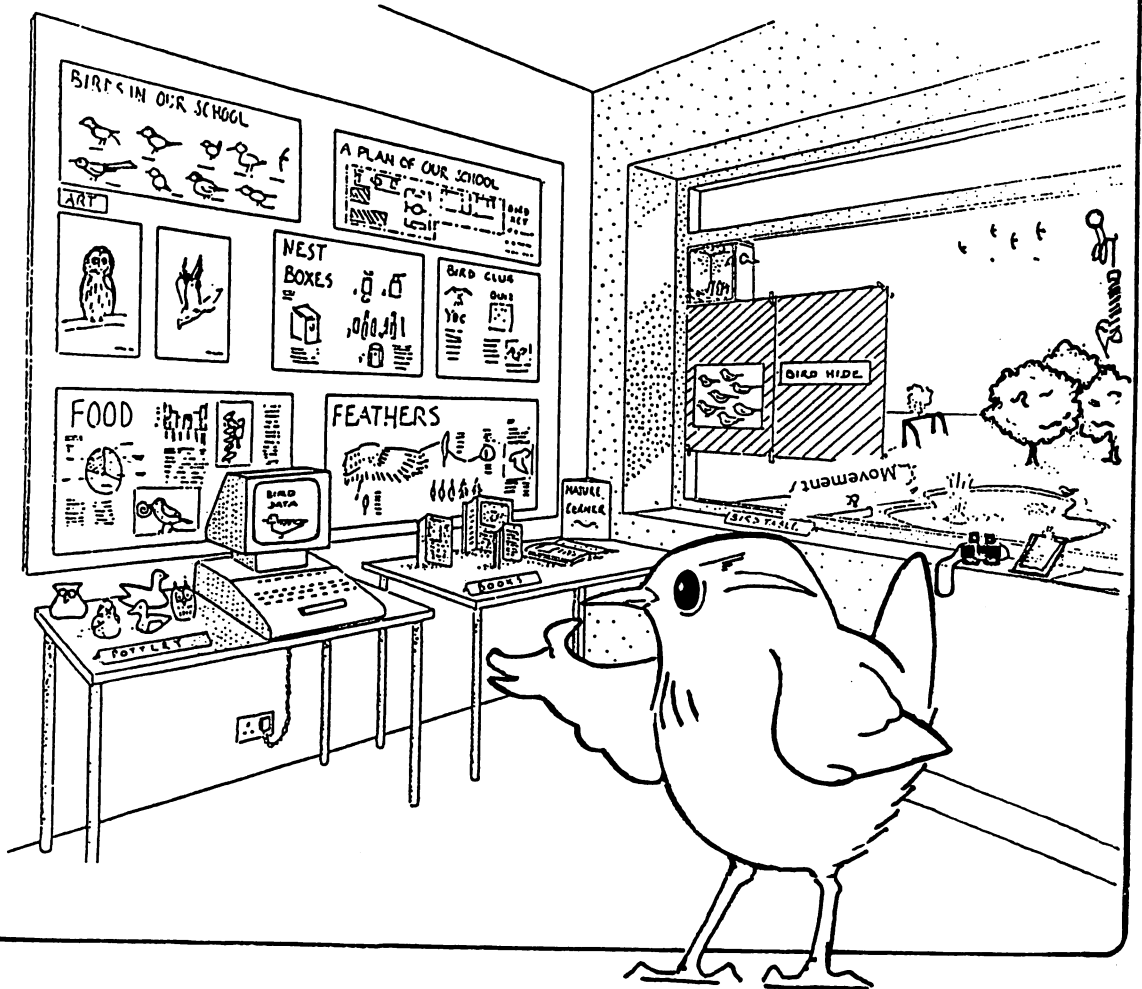
いつでもその鳥がどんな種類であるかがよくわかるくらい十分に近づいて観察できるとは限りません。一番良いのは皆さんの所に鳥を呼び寄せることです。次にこの方法について考えてみましょう。

教室でできる観察

教室は、鳥を観察するのに良い場所です。特に運動場や庭や遊び場を見渡せる位置にある教室では、いつでも何羽かの鳥を観察することができます。しかし、鳥を窓の近くに寄り寄せることができればもっとよく観察できるようになります。このことについてこれから説明しましょう。時間がたつにつれて、鳥は建物の近くに来るようになり、人に見られることに慣れてきます。

双眼鏡があればとても便利ですが、ほとんどの場合、必要はありません。双眼鏡なしでは初めのうちは見分けにくいこともあるでしょう。特に小さくて動きの激しい鳥については、でも心配りません。練習を重ねることで必ずできるようになりますし、それに必要な忍耐力もついてきますから。

一番気をつけなくてはならないのは、子供の動きです。特に、窓に向かって突然走り出すことは禁物です。鳥は野性のものですから、驚かさずに観察するようにしなければいけません。これは子供たちを連れて屋外にバードウォッチングに行く時にも言える大切なことです。小さなグループが観察できるくらいの小さな穴を残して一部の窓をおおい隠すのもよいでしょう。このおおいには注意をうながすために、鳥たちのイラストや子供たちの作品の中でよくできたものを貼りつけても良いでしょう。

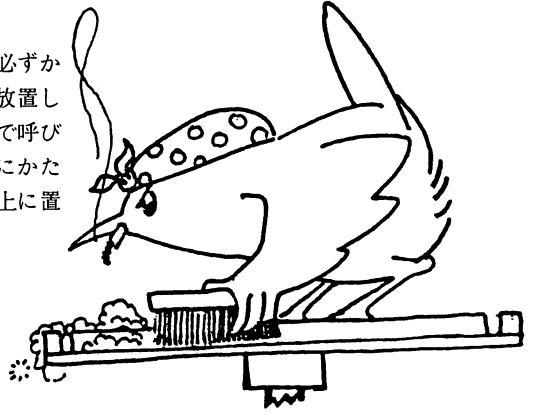


鳥を呼び寄せるには

鳥をより近くに呼び寄せることができれば、鳥についてもっとよく知ることができるようになります。ここでは学校でできる方法について考えてみることにします。もちろんここで考えた方法は学校以外の場所でも試してみてください。鳥を呼び寄せるために鳥たちが必要としている条件を整備することは、鳥たちのためにもなるからです。(実際、英国では約200万羽の鳥が庭の餌台で餌をもらい、冬をしのいでいます。)

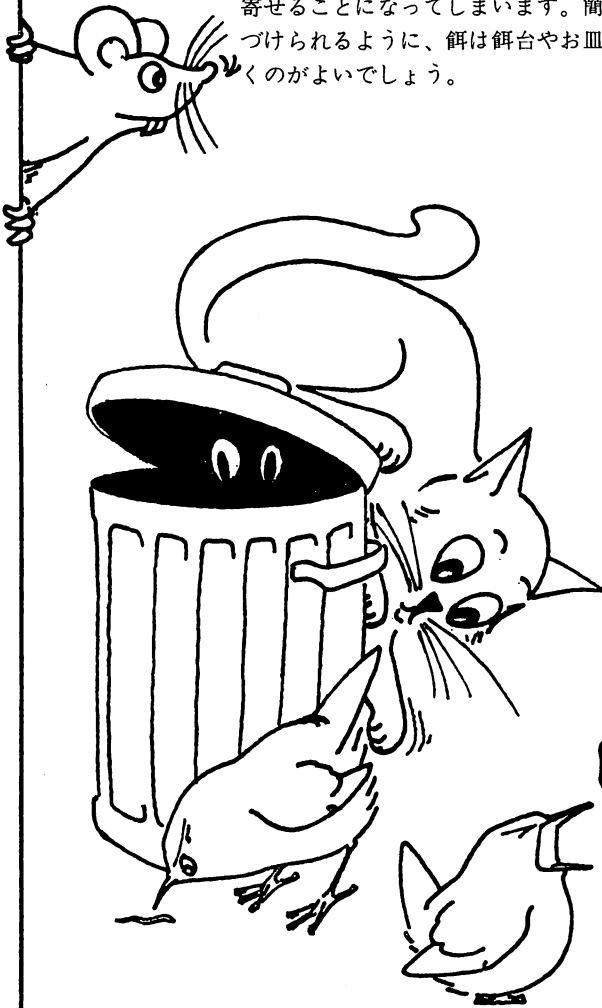
注意すること

餌を地面に置いている場合は、夜は必ずかたづけするようにしましょう。そのまま放置しておくと呼ぶつもりのない野性動物まで呼び寄せることになってしまいます。簡単にかたづけられるように、餌は餌台やお皿の上に置くのがよいでしょう。

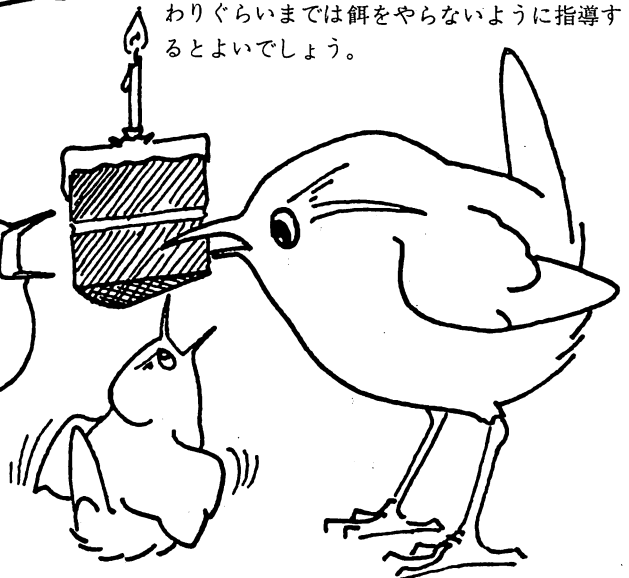


時々、餌台をきれいに掃除して、病気の発生を防ぎましょう。同じ理由から、毎冬一度か二度は餌台の位置を変えるようにしましょう。

繁殖期には、野鳥に餌をやってはいけません。ひな鳥の成長に必要なのは自然の虫などであって人が与える餌は適当ではありません。学校では、およそイースターから夏休みの終わりぐらいまでは餌をやらないように指導するとよいでしょう。



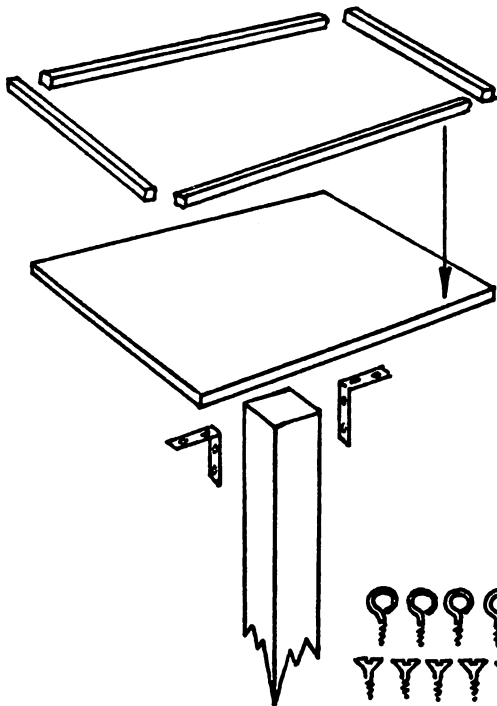
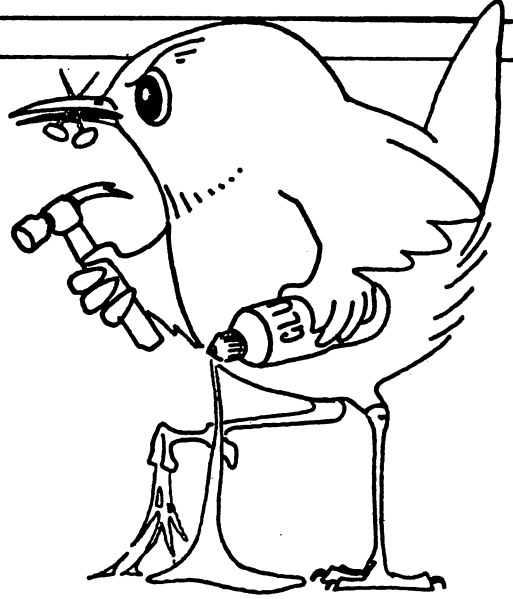
猫の危険のある所では餌をやらないようにしましょう。



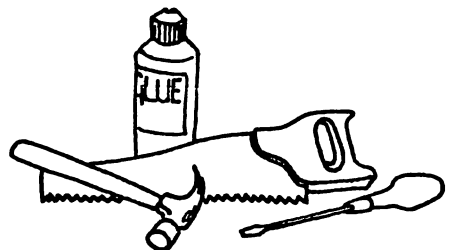
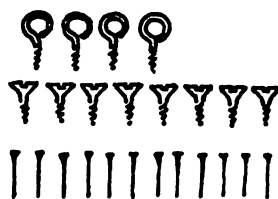
餌台

給餌する場所としては餌台が最適でしょう。すべての条件をそろえているとは言えませんが、鳥たちを猫から守ることができますし、地面から食べ物を離して置けるというような長所があります。それに、餌台は観察にはもってこいの所です。

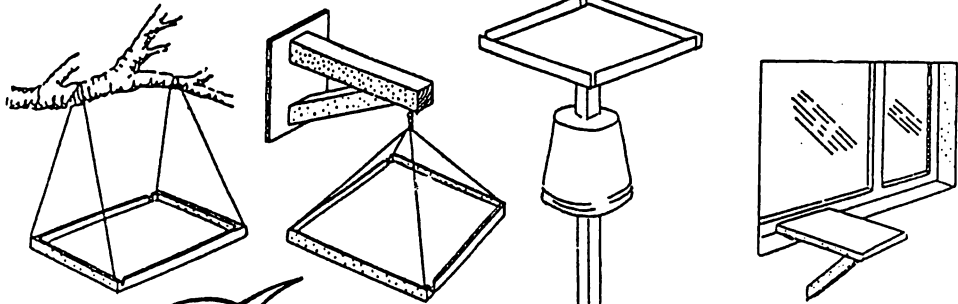
ここで昔から行なわれている最も典型的な餌台の作り方を教えましょう。この作り方は非常に簡単ですし、また、手軽に手に入れることもできます（例えばR. S. P. B.から）。30cm四方以上ならどんな大きさでも大丈夫です。ふちをつければ餌がこぼれにくくなります。でも、水はけをよくするための隙間は作っておきましょう。



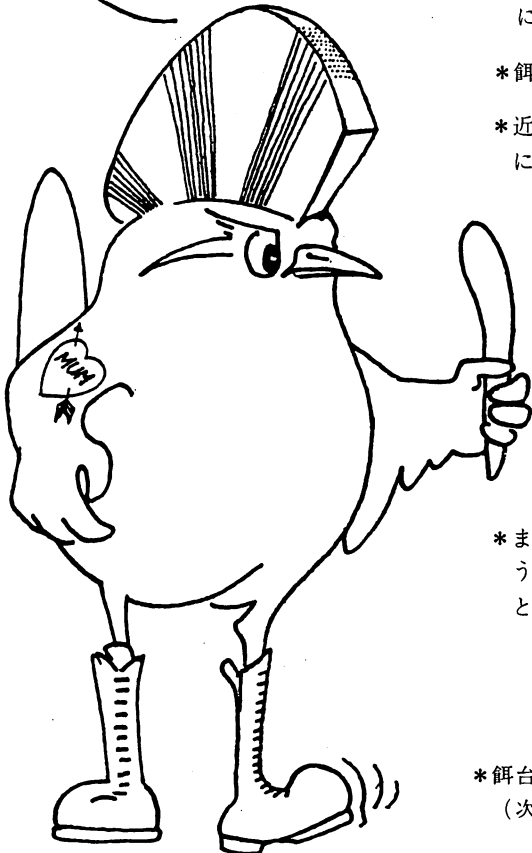
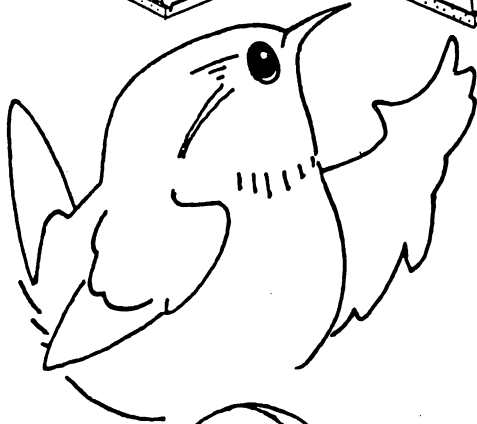
餌台にちょうど良い大きさは300×450mmです（約12×18インチ）。耐水性の合板なら長持ちし、材質としても最高でしょう。でも、これでもなくても結構です。普通の合板はそれほど長もちませんが、工作しやすく、子供と一緒に作ることができます。接着剤と1cmのピンと4辺に切り口が4角形の細長い棒を用意してください。また、4隅に小さな隙間をあげましょう。丸環ねじをつければつるすこともできます。また、蝶番を使えば柱に餌台を固定できます。



餌台の例



いらなくなった金属性の入れ物を使ったネコヤリスを近づけない持ち運び自由の餌台



*市販されている餌台にはしばしば屋根がついています。これは雪や雨を防ぎますが、本当に必要なものではありません。それどころか鳥によっては屋根があるために慣れるのに時間のかかるものもあります。

*餌台は地面に一時的に固定することもできます。

*近くの枝にお盆やお皿のようなものをつるしたら餌台になるでしょう。

*また、壁の腕木から餌台をつるしてもよいでしょう。

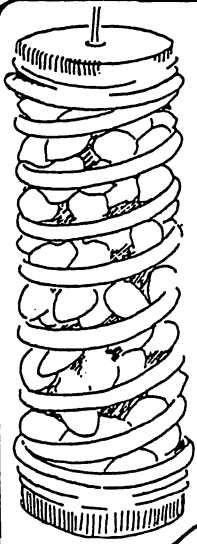
*小さな餌台だったら窓に取りつけられます。

1階以上の教室や近くに餌台を置くのが難しい所で特に使ってみたいものです。

*自然保護の点から考えると、長期間固定する餌台は望ましくありません。餌台に足をつけてそれだけで立つようなものをつくったら、どこにでも立てられ、自由に出したりしまったりできます。

*また、排水管のような管を地面に埋めてもよいでしょう。その管の中に餌台の脚を入れれば餌台を立てることができます。

*餌台の鳥を間近で見ると方法は24ページに出ています(次号掲載)



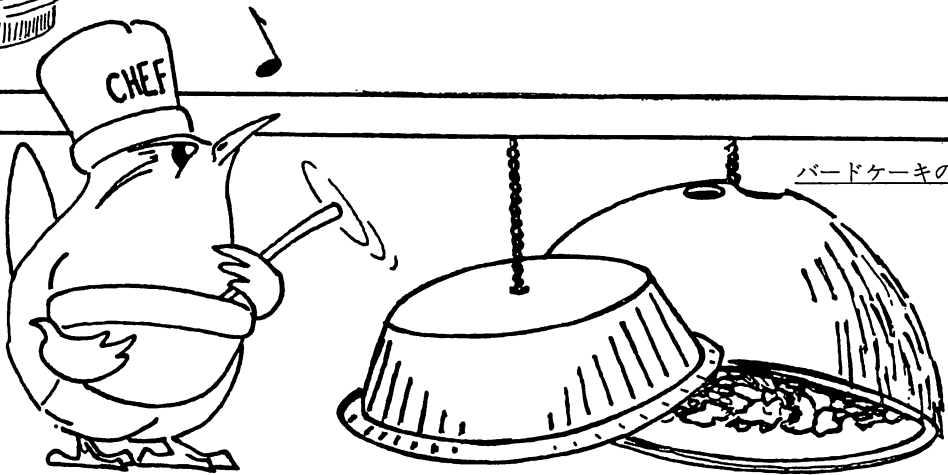
餌台にはいろいろな食べ物を置くと良いでしょう。買ってきたものでもよいですし、家や学校の調理場の残り物でもかまいません。いろいろ工夫してみてください。たくさんの種類の食べ物を置いてください。

とりあえず下記のような食べ物が適当でしょう。他の食べ物も試してみてください。

脂身、ハム、ベーコン、チーズ、焼じゃが芋（切って開いたもの）、からす麦、ひまわりの種、麻、パートミックス（RSPBがつくった野鳥のための餌）、ピーナッツ、半分にしたやしの実、古くなったリンゴ、その他多くの種類の残りくず、パンくず、パンケーキ

警告：やってはいけないもの

塩味のピーナッツ、乾燥したココナッツ、白いパンだけずっとやり続けること

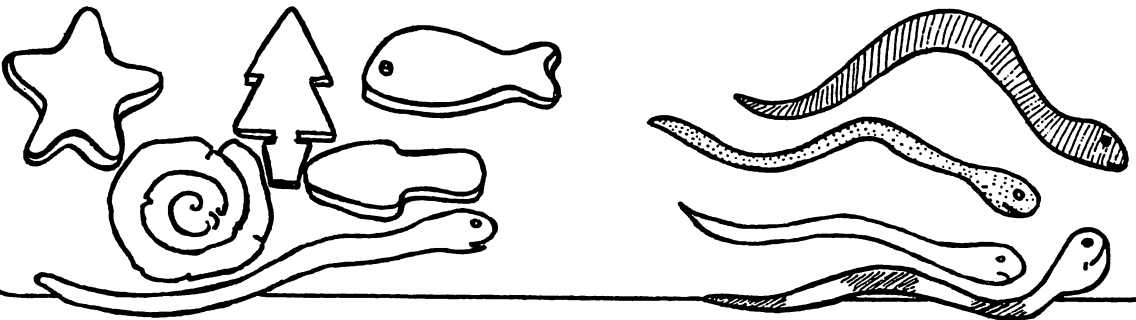


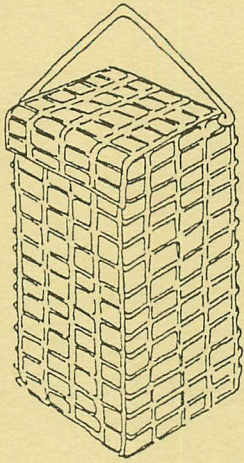
バードケーキの作り方

ピーナッツ、ひまわりの種、きびの実、ひきわりからす麦、種なしぶどう、古くなったパンケーキ、台所の残りくずを混ぜたものの上に熱くした脂身をのせ少し冷やさない。それをホイル製のパイ皿や半分に割って中身をくりぬいたココナッツの中に入れなさい。こうすれば、鐘の形をした野鳥用の餌（フィーディングベル）のできあがりです。ヨーグルトの入れ物は脂身がとても熱ければ溶けてしまいますから使うときは注意なさい。

ペストリー

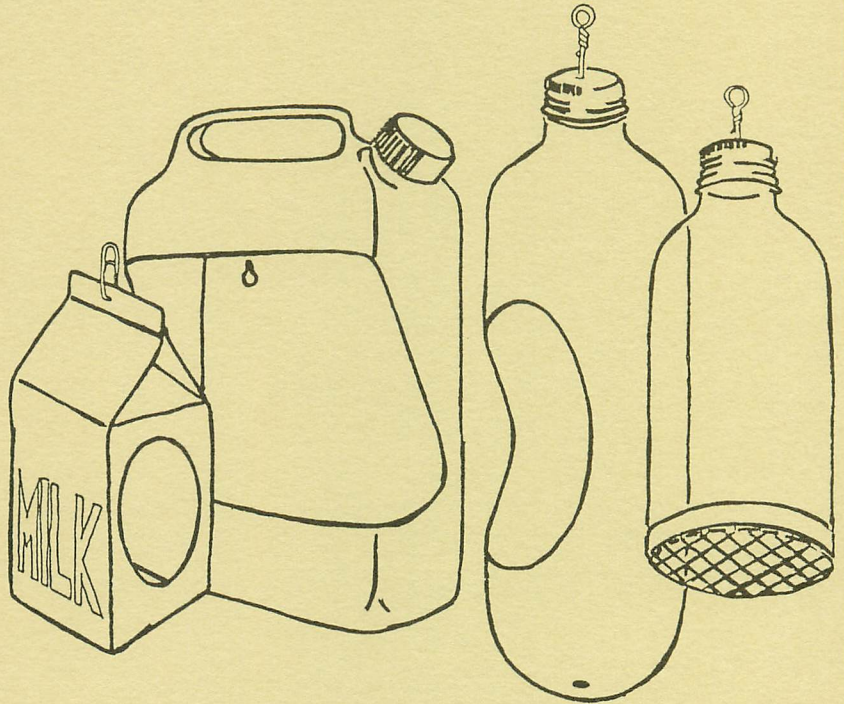
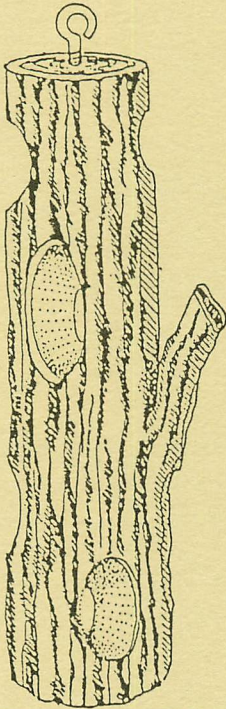
ペストリー（練り粉にバターを加えて焼いた菓子）、その中でも特に全粒粉は鳥の理想的な食べ物です。自分でペストリー形や色を変えて楽しむこともできます。ビスケット・カッターを使い、粉を練ったものを切ったり、伸ばしたビスケット型を使ってイモ虫やヘビやカブトムシのような形にしてごらんください。どの形が一番気に入りましたか？自分で一番好きな形を選び無害の着色料で染めてごらんください。鳥はどれが一番好きですか。結果を記録しておきましょう。



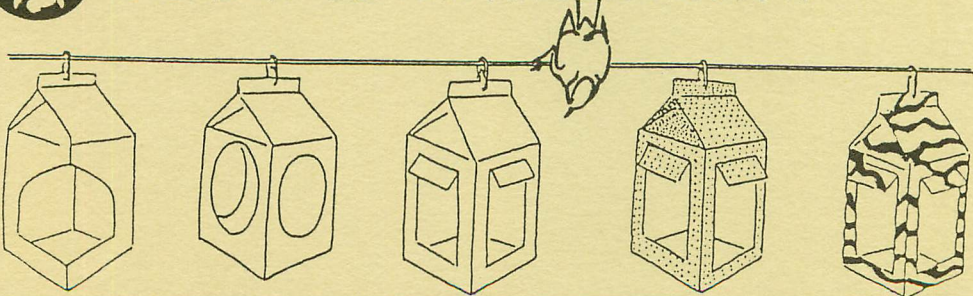


ここでは教室の近くに鳥を集めるのによさそうな給餌器（バードフィーダー）を紹介します。この中にはゴム製の吸着盤で窓の外につけられるものもあります。

ここに紹介した給餌器を使っていろいろな方法でえさをやることができますし、また鳥が餌を食べている様子をよく観察することができます。市販の給餌器を利用することもできますが、子供たちの手でそれを作って、そのできばえを試してみる方がずっと楽しいでしょう。今の社会ではおびただしい数の入れ物の投げ捨てが行なわれていますが、ほんの少しばかり工夫すれば、餌台や水浴び場や巣箱になるもののがかなりあります。こういったもののうちのいくつかをイラストで紹介しておきますが、子供たちはもっといろいろなものを自分たちで思いつくことと思います。なお、給餌器を作ったら鳥がでてくることができなくなるようなことがないように確かめておいてください。



色：牛乳パックを使ってできるだけいろいろな形の餌箱を作ってください。そしてそれを洗濯ひもの様なものに1列にかけてみましょう。鳥はどの形が一番好きでしょうか。次に、鳥が一番好きな餌箱にエナメル製の模型を作るときに使うペンキを塗ってください。どの色の箱に鳥が一番集まりますか。結果を記録しておきましょう。



“愛鳥研”「冬期室内研修会」のお知らせ

当研究会および財団法人日本鳥類保護連盟の共催により下記の室内研修会を実施いたします。会員の皆様、ぜひご参加下さい。

記

日 時：昭和64年1月28日(土)

第一部「研修会」午後1時より4時半まで(受付1時より)

第二部「交流会」午後5時より7時まで

場 所：東京都世田谷区世田谷区民会館

第一部「研修会」会館2F大集会室

第二部「交流会」会館1F「けやき」

内 容：ワークショップ「野鳥と図画工作」

(第一部)・講演「自然を遊びながら学ぶ」(仮題)

国立科学博物館附属自然教育園

矢野亮主任研究員

・小学校・中学校の代表校実践発表

参加費：第一部は500円、第二部は3000円

※申し込みは、愛研事務局(日本鳥類保護連盟)まで電話ないしはがきにて申し込み下さい。(メ切1月23日)

“愛鳥研”「冬期野外研修会」のお知らせ

当研究会および財団法人日本鳥類保護連盟の共催により下記の野外研修会を実施いたします。多摩川の野鳥はもちろんのこと、愛鳥モデル校児童OBのリーダーシップぶりも見ものです。

記

日 時：昭和64年2月19日(日)午前9時40分～午後2時

場 所：東京都多摩川昭和水堰付近

集 合：JR青梅線拝島駅北口改札口前

午前9時40分

解 散：同上

午後2時頃予定

持 ち 物：弁当および観察道具、参加費は無料

※雨天中止、申し込みは、愛研事務局まで電話ないしはがきにて申し込み下さい。

(メ切2月15日)

編集後記

今年度は、冬期研修会を野外だけでなく室内も開催します。これは少しでも会員をはじめ“愛鳥教育”に関心の深い人たちのネットワーク作りには力を入れるべき時期と考えたからです。当会は、まだまだ力不足で、関東地区中心の交流会になっていますが、やがては、全国にこのネットワークのセンターができればと思っています。……それはともかく、1月28日の交流会は実に気楽な会になりますので、ぜひご参加を。(杉浦)

愛鳥教育 No. 28 昭和63年11月30日

発行人 江袋島吉

発行所 全国愛鳥教育研究会

住 所 〒150東京都渋谷区宇田川町37-10

麻仁ビル渋谷503

(財)日本鳥類保護連盟内

電 話 東京03(465)8601

郵便振替 東京2-92041

制 作 かなえ書房